

# 「柏崎の水」

## 石地鉱泉（出雲崎 勝見鉱泉）

昭和2年、石地海水浴場は新潟毎日新聞社主催の海水浴場選定において一等となり、「近県名所選定一等当選 石地海水浴場」の碑が建てられた。石地鉱泉は、碑の場所から3 kmほど北上した、西山・出雲崎の境界付近、出雲崎町勝見地区にあった。

明治末年、日本石油がこの地で石油井の掘削を行ったが、水とガスしか出ず廃坑となった。しかし、付近の人々はその井戸の水で手を洗ったり風呂を沸かして入ってみると、傷や皮膚病、腰の痛みなどがよくなったという。そこで、井戸の水の成分調査を行ったところ、浴用・飲用ともに効能がある鉱泉との結果が出た。（下図）



石地鉱泉場（「小竹コレクション絵葉書」より）



勝見鉱泉 日帰り入浴も可能



石地鉱泉効能（小竹コレクション絵葉書）の部分拡大



この水とガスを利用して鉱泉浴場を開設すれば町の繁栄と地域住民の健康増進につながるとして、石地・出雲崎の有志が出資し、石地鉱泉場「石地館」が建設された。石油井から出る鉱泉は、通常、油の臭いがしたり油が浮いていたりするが、ここでは砂と砂利でろ過して除去している。それを同じ井戸から出るガスを使って沸かしていた。

石地館の建物は昭和36年の第二室戸台風によりほぼ全壊した。現在の建物は昭和50年代に建てられたものであるが、鉱泉を沸かす仕組みやろ過の方法は、創業時のものをそのまま受け継いでいる。昭和40年代に名称が「勝見鉱泉」と改められたが、かつてここに宿泊した人が昔を懐かしんで来訪し、当時の様子を語ってくれることもあるという。